

ドクター メモ

早期発見が大切

大腸がんの予防と治療

大腸がんは、日本では最近胃がんを抜いて2番目に死亡者数が多く、女性では1位、男性では3位と男女ともに多くみられる悪性腫瘍です。早期大腸がんであれば内視鏡治療（大腸カメラでの治療）でお腹を切らずに完治できますが、進行してしまうと外科手術が必要で、転移があるような進行的な場合には完治は困難になってしまいます。

外科手術・抗がん剤治療・放射線治療の進歩で治療効果は高くなっていますが、ほかのがんと同様、早期発見・早期治療を行うことで、治癒率を上げ、体の負担を軽くすることができます。

ほとんどの大腸がんは、まず大腸ポリープが発生し大きくなっていく過程でがん化するとされています。つまり、がん化する前の大腸ポリープの段階で発見し切除すれば、大腸がんの予防につながると言つてよいでしょう。

近年の医療技術の進歩によつて、従来の内視鏡的粘膜切除術（EMR）では治療困難

な大きなポリープや早期大腸がんも、内視鏡的粘膜剥離術（ESD）によつて切除・完治できるようになりました。胃のESDに比較すると治療の難易度が高く、現在は日本内視鏡学会の認定施設に限定されていますが、普及しつつある治療法です。

ただし、大腸がんは早期の段階では症状は乏しいため、大腸ポリープ・早期大腸がんの段階での発見には内視鏡検査が重要です。内視鏡検査が困難な方や抵抗感のある方の場合は少なくとも、大腸がんの死亡率を低下させる有用性が証明されている便潜血検査（人間ドックや検診）を受けられた方がよいでしょう。その他の検査方法としてCTを使用するCTコロノスコーピー・バリウムを使用する注腸透視検査が挙げられます。

大腸ポリープや大腸がん、内視鏡検査・治療などでご不明な点があれば、お近くのかかりつけ医や消化器病専門医にご相談ください。

吹田市医師会 上山 茂充